

◇ 輪之内町の基本方針 **一人一人が未来に夢や希望をもち「生きる力」を育む指導をする**
学校の教育目標の具現に徹する学校経営をする

学校の教育目標 ひろい心をもち 豊かに表現できる子

◇ 願う学校像 **「楽しい学校」**

今日が満足で、明日が楽しみ = 笑顔・自信・やる気

～ 温かく、明るく、元気で、安心・安全な学校だから、(児童が)行きたい、(教職員が)働きたい、(保護者が)通わせたいと思える学校 ～

◇ 学校課題

- ① 自己肯定感と自己有用感、主体性の醸成
- ② 確かな学力を身に付けさせる学習指導の充実
- ③ 主体的・対話的で深い学びを実現する教育活動の推進
- ④ 基本的な生活習慣の確立と自発的・自治的な集団づくり
- ⑤ 安心・安全に関する意識の向上と環境づくり
- ⑥ コミュニティ・スクール、地域学校協働活動の実効性ある運用

◇ 学校経営の方針(2)と重点項目(6)

・ **学校の教育目標の具現に徹する学校の経営**

・ **一人一人のよさを引き出し、生かし、伸ばす意図的・継続的な指導・支援の推進**

- ① 学級経営 ② 学習指導 ③ 安全教育 ④ 道徳教育 ⑤ 家庭・地域との連携 ⑥ 働き方改革

◇ **指導・支援の基本精神 「ひたむきに取り組む姿を徹底して褒める」**

目指す児童の姿と具現の場・評価指標

◎豊かな表現力 〈主体的に学び、仲間と高め合える子〉	◎ひろい心 〈自己を見つめ、助け合える子〉	◎たくましい心と体 〈運動に親しみ、みんなで遊べる子〉
① 「仁木小の授業はこれだ」を活用した授業の実施 ② 学習の基盤としての言語能力と情報活用能力の育成 ③ 「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業実践 ④ 「学びのユニバーサル・デザイン」の実現 ⑤ 学び合う楽しさを実感できる算数科授業の実施 ⑥ 「聴く」「話す」「ノートづくり」指導の充実 ⑦ 本物体験の実施とゲストティーチャーの活用 ⑧ 効果的なICT、教科 web システムの活用 ⑨ 家庭学習の充実(「手引き」の活用、学年通信による啓発、課題の重点化)と読書の習慣化	① 「よいこと見つけ」の実施(全校統一したコーナー) ② 教育相談の充実(児童理解、いじめ・不登校・問題行動の未然防止)、情報共有、組織対応 ③ 自発的・自治的な集団づくりと創意工夫を生かした係活動・児童会活動の推進(合言葉は「一工夫」) ④ 「挨拶・もくもく掃除・歌声」を3本柱とした校風づくり ⑤ 「ふるさと・ふれあい学習」の充実(校区ふれあい運動会、コミュニティスクール・フェスタ、総合的な学習、こ小中交流) ⑥ 考え議論する道徳、福祉・人権教育の推進 ⑦ 交流及び共同学習の推進	① 体力・運動能力の向上(体育、朝活動、みどりの時間、昼休み等) ② 「みんなで遊べる子」にするための学級遊びの実施(できるだけ教師も一緒に遊ぶ) ③ 危険予知・回避能力を高める安全指導の充実(命を守る訓練、通学班指導) ④ 家庭との連携による望ましい生活習慣の定着(早寝・早起き・朝ご飯、挨拶、手伝い、町情報モラル宣言遵守の推進) ⑤ 栄養教諭との連携による食育の充実
・ 国社算理の授業がよく分かる 92% (89.5) ・ 自分で計画を立てて勉強している 85% (76.7) ・ 進んで読書をしている 80% (77.6)	・ 学校が楽しい 85% (81.9) ・ 自分にはよいところがある 82% (78.4) ・ 地域行事に参加している 93% (92.2)	・ 進んで外遊びをしている 93% (92.2) ・ 朝ご飯を毎日食べている 98% (96.6) ※ () は昨年度

<保護者> ・ 基本的な生活習慣 ・ 家庭学習習慣 ・ 読書習慣 ・ 躰 ・ 耐性 ・ 自然、文化体験 ・ 手伝い など	<地域> ・ 伝統文化 ・ ボランティア活動 ・ 地域講師 ・ 登下校の見守り など	<関係諸機関> ・ 民生委 ・ こども園 ・ 町内小中学校 ・ 公共施設 など
--	--	--

地域住民総掛かりで心豊かな子どもを育てるコミュニティ・スクール、地域学校協働活動の推進

学校評価 PDCAサイクルの確立

児童アンケート(7, 12月)、教職員アンケート、保護者アンケート(12月)、学校関係者評価(2月)

◇ 教職員の構え

- ・ 子どもにとって値打ちがあるかどうかを意識した取組や指導、業務の効率化を進める。【80hを超える時間外勤務：0人 45h以内を目指す】
- ・ 教師としての使命感ややりがいをもち、熱意、誠意、創意をもって児童の心に寄り添う。
- ・ 丁寧な教材研究や指導方法の工夫改善、課題をもった研修会への参加で自己研鑽に励む。
- ・ 高い人権意識、危機管理意識をもって教育活動にあたり、保護者や地域とのコミュニケーションを密にする。
- ・ 組織人として明るく支え合い、磨き合える教職員集団にする。“チーム仁木小”